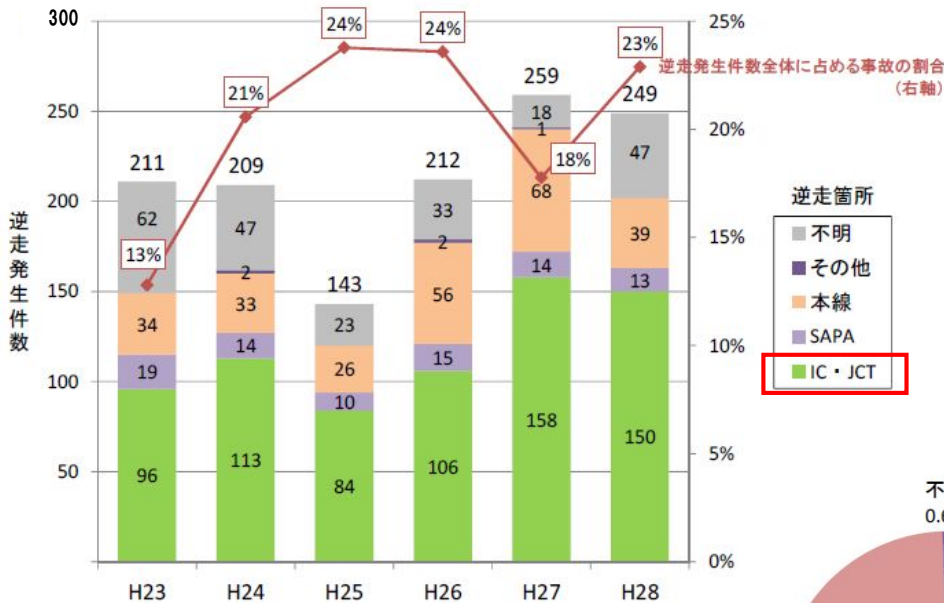
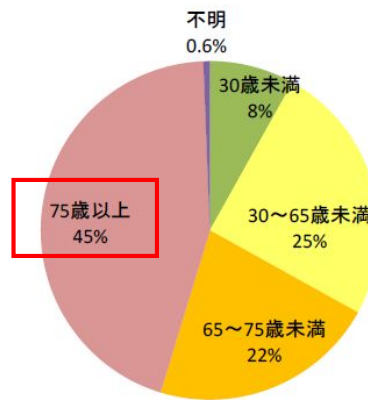


1. 逆走事案の発生状況

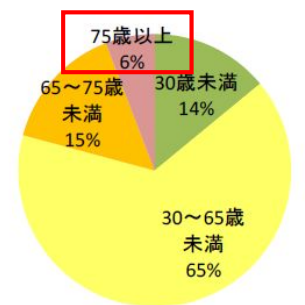
- 全国の高速道路では、概ね 2 日に 1 回の頻度で逆走が発生
- 逆走事案の約 6 割は、インターチェンジ(IC), ジャンクション(JCT)で発生
- 75 歳以上の割合は、免許保有者の 6% であるのに対し、逆走した運転者の 45% を占める



〈逆走発生件数の推移と発生箇所〉



〈逆走した運転者の年齢〉



〈参考:免許保有者の年齢〉

※平成27年度運転免許統計より

高速道路での逆走対策に関する有識者委員会(第3回)資料より
 データ: H23~28年の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故または確保に至った逆走事案 N=1,283
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

《参考》 NEXCO 西日本管内の地域別逆走事案発生状況

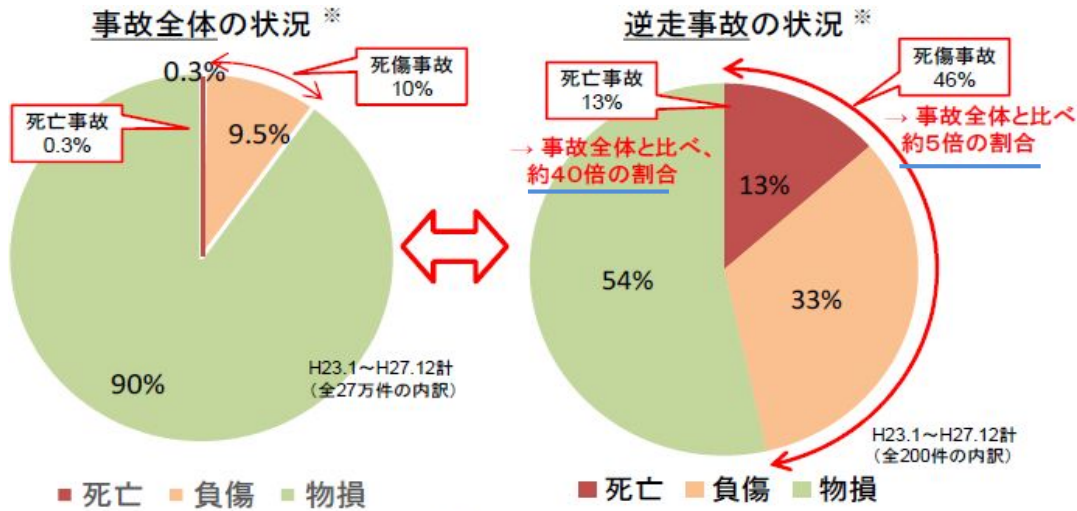
- 地域別の発生状況に大きな差はなく、逆走はどこでも発生しうる事案です

	関西地域	中国地域	四国地域	九州地域	合計
逆走発生件数	104	114	87	187	492

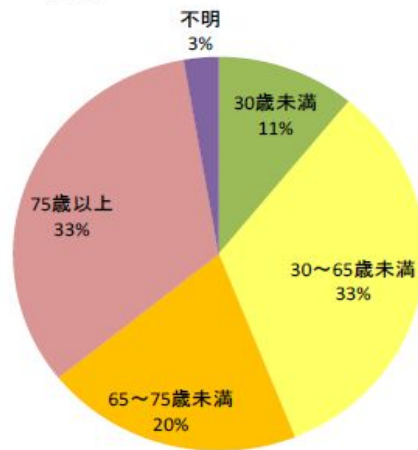
データ: H23~28年のNEXCO西日本管内の高速道路における事故または確保に至った逆走事案 N=492
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成したデータを基に、NEXCO西日本が集計

2. 逆走事故の発生状況

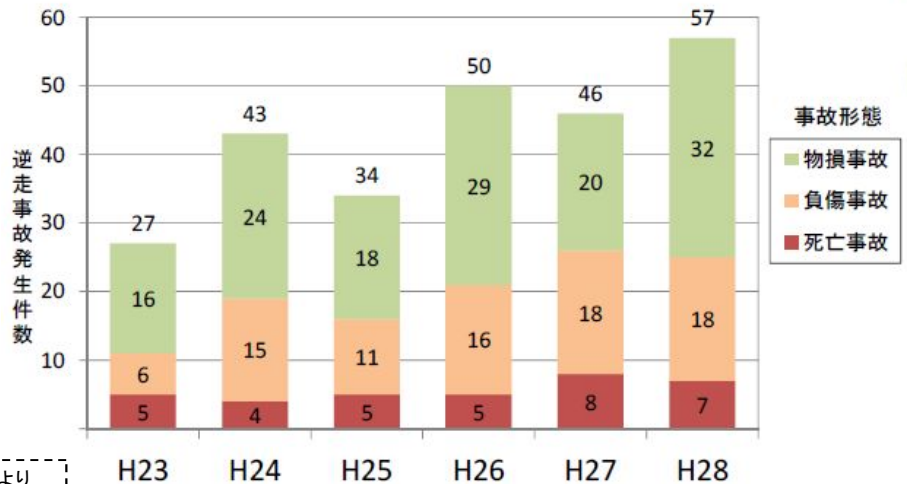
○ 逆走事故は、死傷事故となる割合が高速道路での事故全体に比べ約5倍、
死亡事故となる割合が約40倍



※ 高速道路会社が管理する高速道路の状況(高速道路会社調べ)



〈逆走した運転者の年齢(事故)〉



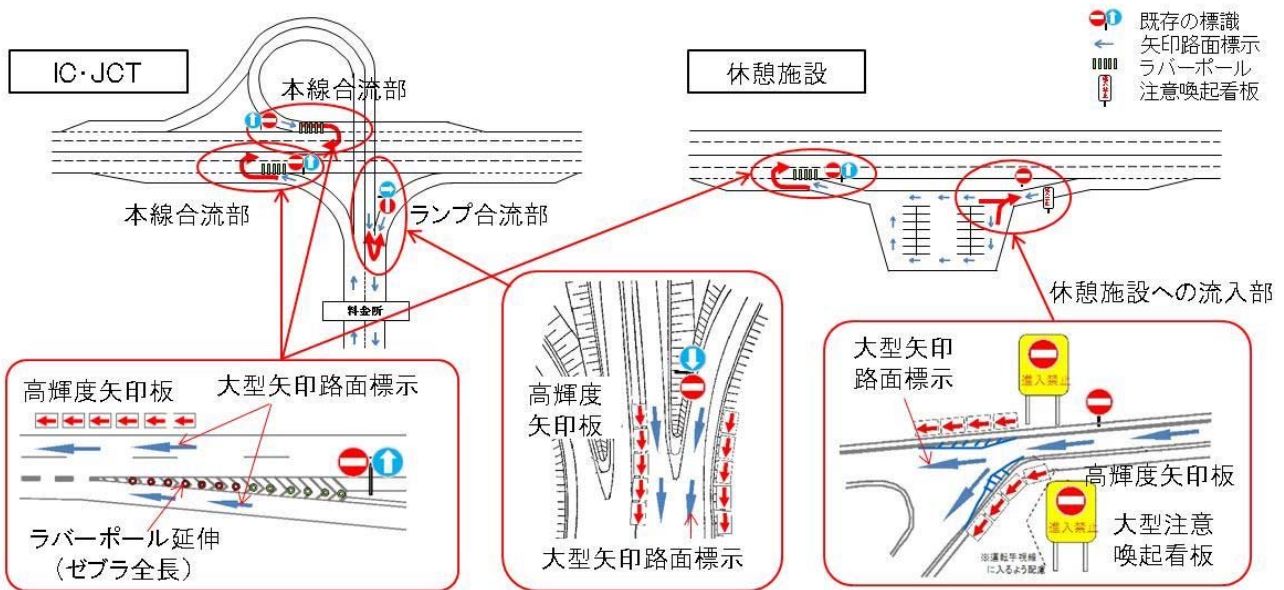
〈逆走事故発生件数の推移と事故形態〉

高速道路での逆走対策に関する有識者委員会(第3回)資料より
 データ: H23~28年の高速道路(国土交通省及び高速道路会社
 管理)における事故に至った逆走事案 N=257
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

3. 逆走対策(ハード面・技術公募)の実施状況

- 高速道路会社では現在、逆走対策として全てのインターチェンジ(IC)・ジャンクション(JCT)等の分合流部での物理的・視覚的対策を進めており、平成29年度内に全ての箇所での対策を完了させる予定です
- 更に、対策のより一層の推進を図るため、民間企業等から逆走対策技術の公募を行い、応募技術の中から実道での検証等を行う技術を選定し、平成29年3月23日に公表しました。今後、実道での検証等を概ね1年程度行っていく予定です。

〈実施中の逆走対策の例 (IC・JCT、休憩施設の分合流部)〉



〈公募技術の応募状況及び選定結果〉

【公募分野】

テーマⅠ	テーマⅡ	テーマⅢ
<ul style="list-style-type: none"> ○道路側での逆走車両への注意喚起 ・センサーとLED表示板・音・光等を用いた注意喚起等 <ul style="list-style-type: none"> ○道路上の物理的・視覚的対策 	<ul style="list-style-type: none"> ○道路側で逆走を発見し、その情報を収集する技術 ・路側カメラ、3Dレーザーセンサー等の路側機器・路側センサーの活用 ・道路管制センターとの連動等 	<ul style="list-style-type: none"> ○車載機器による逆走車両への注意喚起 ・カーナビにより、ドライバーに対し警告等 <ul style="list-style-type: none"> ○自動車側で逆走を発見し、その情報を収集する技術

【応募状況及び選定結果】

	テーマⅠ	テーマⅡ	テーマⅢ	計
応募提案数 (応募企業数)	56 (43)	36 (31)	8 (8)	100 (82)
※同一企業が複数の提案を行っている場合がある				
↓ <選定の考え方> <ol style="list-style-type: none"> ① 走行の安全性等基本要件への適合性を確認 ② 技術の有効性、開発計画等提案内容の具体性等を確認 ③ 類似提案については相対評価により有効な技術を選定 				
	テーマⅠ	テーマⅡ	テーマⅢ	計
選定提案数 (選定企業数)	14 (13)	9 (8)	5 (5)	28 (26)